JULY 2014. No.2

▼日本創造学会

JCSNEWSLETTER

第36回日本創造学会研究大会 「体験と創造」

ーどのようなキッカケが閃きの扉を開け<mark>る</mark>のか

日程:2014年10月25日(土)-26日(日)

会場:産業能率大学自由が丘キャンパス



実行委員長:豊田貞光

体験を通じて得た知見や身体知は、どのようなキッカケがあれば、新たな創造物や新発見に通じていくのか、この大会では探求しています。

基調講演では、システム×デザイン思考の第1人者<mark>慶応大学前野</mark>教授に登壇いただき、閃きのための協 **創の重要性やメンバー幸福感の関係性を紐解**いていきます。

パネルディスカッションでは、認知症の祖母との会話からヒントを得て、共想法を考案した大武准教授、下町ボブスレー開発を通じ、オープンイノベーションを実現させた國廣社長、電通にて異文化環境下で数多の閃き体験をしてきた松坂先生をお招きし、前野教授と共に熱く、ホッコリしたトークを繰り広げます。

◆基調講演◆ 10月25日(土)13:10~14:10(予定)



「どのようなキッカケが閃きの扉を開けるのか」

りまべ協創×幸せ

チームでのイノベーションは幸福と創造につながる

講演者: 前野隆司 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科委員長・教授 日本創造学会理事

~講演者プロフィール~

東工大卒、東工大修士課程修了。キヤノン株式会社、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員、ハーバード大学客員教授、慶應義塾大学理工学部教授等を経て、現在、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科委員長・教授。博士(工学)。ロボティクス、ヒューマンマシンインタフェースから、イノベーション教育、地域活性化、哲学・倫理学、共感学・幸福学まで、人間に関わる社会・技術デザインの研究に従事。

基調講演概要

講演者はイノベーション教育や幸福学の研究を行っている。新しいアイデアを出してイノベーションを創出するためには協創が不可欠である。このため、どのような時に協創が重要であるか、いくつかの研究結果を紹介する。まず、協創においては、メンバーが多様な場合の方が、アイデアの質の平均値は下がる者の標準偏差は大きくなる結果、斬新なアイデアが生じやすいことを述べる。また、協創するチームにおいて、協調性の高い者が多いほど協創の効果が出ることを述べる。女性が多いほどアイデアが良いことも知られている。また、全体俯瞰的な視点を持っている人は楽観的で幸福な傾向があることについても述べる。次に、講演者らの幸福研究の結果について述べる。すなわち、心的な幸福は以下の4つの因子で表されることについて述べる。①自己実現と成長、②つながりと感謝、③前向きと楽観、④独立とマイペース、である。これらの結果は、協創の条件とよく似ている。つまり、クリエイティブ・イノベイティブなアイデアを出すために協創することは、そのメンバーが幸福になることでもあると言えそうなのである。創造学=幸福学である。



パネルディスカッション10月25日(土)14:30~(予定)

テーマ:「どのように扉をくぐり抜けたか」

気!つく~体験の中からの発見~



■パネリスト紹介■





大武美保子氏 千葉大学大学院工学研究科准教授

認知症の祖母との会話をヒントに、写真を見てほの ぼの会話をする共想法を考案。2007年、研究拠点 ほのぼの研究所を設立し、翌年NPO法人化、代表 理事に就任。2010年より、JSTさきがけ「大規模会 話データに基づく個別適合型認知活動支援」研究 代表。2003年、東京大学大学院工学研究科修了、 博士(工学)。主著は、介護に役立つ共想法(中央 法規出版、2012)。



國廣愛意氏 ㈱フルハートジャパン代表取締役 下町ボブスレー合同会社代表社員

東京蒲田地区にある業務用機器の電子系・機械系設 計とシステム開発企業。地域活性化の一環で区の職 員の提案を受けて、下町ボブスレー開発のプロジェクト メンバーとして延110社の企業を統括、オープンイノベ ーション活動を通して、体験による課題解決、ノウハウ の獲得、各社新規事業のきっかけ発掘そして社員のモ チベーションアップに寄与し、地域の団結による活性 化、地域のPRなど多くの効果を上げている。



松坂たかよし氏 英国王室 芸術・商工業振興フェロー 株式会社インターリード顧問

東大文学部心理学科卒。電通入社、ロンドン支局長、中 国マーケティング総監などを 経験、東京成徳大・前橋国 際大でマーケティング論など担当。また、英国のToy Libraryの活動をヒントに、日本おもちゃ図書館財団設立 に貢献。玩具療法士、こども支援士などの資格を活かし 次世代の教育支援。世田谷区豪徳寺2丁目とロンドンの バーンズ町の姉妹村、母校時習館高校とバーンズ町の St. Paul's高校の交換留学創設に貢献。Barnes英語学校



前野隆司氏 慶應義塾大学大学院システムデザイン・ マネジメント研究科委員長・教授 日本創造学会理事

学問分野の枠を超え「人間にかかわるシステムであれ ば何でも対象にする」「人類にとって必要なものを創 造的にデザインする」という方針で研究・教育を行っ ている。研究分野は、ヒューマンインタフェース、イノベ ーション教育、地域活性化、幸福学と幅広い。著書に 『幸せのメカニスム―実践・幸福学入門』(講談社現代 新書、2013)『システム×テザイン思考で世界を変え る』(日経BP・2014)など多数。

◆大会スケジュール(予定)※都合により変更になる場合もあります 10月25日(土)1日目

時間	プログラム
12:00~12:50	合同役員会
12:00~	参加者受付開始 6号館
13:00~13:10	開会挨拶 6号館6203
13:10~14:10	基調講演
14:30~16:50	パネルディスカッション (インタラクティブセッション)
17:00~17:30	総会・学会賞表彰式
18:00~20:00	懇親会 (木曽路)

◆懇親会のご案内◆

多くの皆様のご参加をお待ちしております

会場:和食レストラン「木曽路」 東京都世田谷区等々力7-3-1

Tel 03-3705-8670

会 費: 6,000円

10月26日(土)2日目

時間	プログラム
9:45~	受付開始
10:00~12:30	研究発表 (発表20分·質疑·交代5分) 6号館 6202,6301,6401
12:30~14:00	昼食
14:00~16:00	研究発表 (発表20分·質疑·交代5分) 6号館 6202,6301,6401

▲2014年度総会開催のご案内▲

2014年度会員総会を10月25日17時より開催致 します。

会員総会は全会員の参加が基本です。参加で きない場合は、学会より送付される往復葉書の返 信にて、期日までに委任状をご提出下さい。

大 会 要 項

参加方法 : 学会事務局までメールまたはFAXで参加申込書をご送付ください。

(参加申込書は学会ホームページの大会案内ページよりダウンロードできます。)

発表申込 : 申込書を記入の際に発表申込欄にご記入ください。発表要項をお送りします。

日程: 2014年10月25日(土)~26日(日)

会場: 産業能率大学 自由が丘キャンパス 6号館

内容 : 講演会・パネルディスカッション・懇親会・研究発表など

発表・参加申込の締切 : 7月末日(第1次締切) 〈発表論文掲載料〉

①原稿 (A4, 1680字)×4枚:2000円

②1枚追加ごとに1000円

※論文の査読は特にありませんが、論文執筆要綱に従った形式で投稿して下さい。記載内容は自己責任となり、訂正の依頼等は受け付けられませんのでご了承ください。

研究発表論文の締切 :8月末日(厳守) 〈大会参加費〉

正会員 学生会員 非会員 事前払込み/ 3000円 2500円 4000円

当日払い / 4000円 3000円 5000円

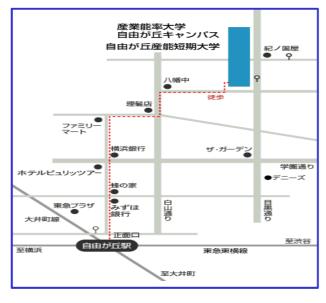
懇親会費 / 6000円

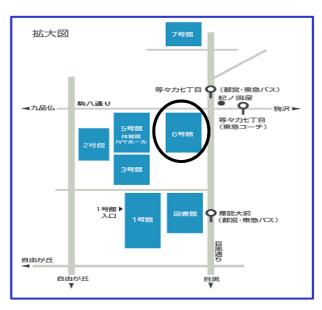
※1日目のプログラムのみ参加希望の場合は 参加費無料、資料代のみで参加できます。 事前払込み/1000円 当日払い/1500円

【大会会場】産業能率大学自由が丘キャンパス6号館 ※東京都世田谷区等々力6-39-15

電車でのアクセス

東急東横線・大井町線「自由が丘駅」下車徒歩15分 ※ 駅前より東急コーチ (バス) が利用できます。3番目の停留所「等々力7丁目」で下車してください。(乗車時間約5分) ※大学内に一般用駐車場はありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。





●●●●●著作紹介●●●●

『システム×デザイン思考で世界を変える』 前野隆司ほか著 日経BP社 1,944 円(税込)



慶應SDM(慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科)において編著者らが行ってきた修士課程必修科目「デザインプロジェクト」や類似した公開講座、社員研修等の手法と結果をまとめた本。

16の手法、33のQ&Aなどが載っており、チームでイノベーションを起こしたい方やシステム思考、デザイン思考の基礎を学びたい方にお勧めしたい一冊。2014年3月発売。著者は、前野隆司、保井俊之、白坂成功、富田欣和、石橋金徳、岩田徹、八木田寛之。

『幸せのメカニズム 実践幸福学入門』 前野隆司著 講談社現代新書 864円 (税込)

1980年代以来、心理学や経済学の分野を中心に活発に研究が行われている幸福学についてまとめた本。まず、幸福についての定義を述べた後に、年収、健康、結婚、宗教、性格、し好等がどのように幸せに影響するかについての過去の研究結果を述べている。

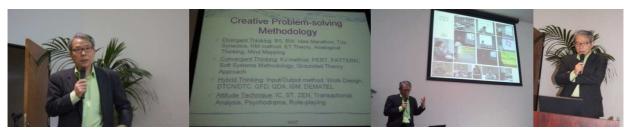


また、幸せには長続きしない幸せと長続きする幸せがあることを述べている。前者は地位財(金銭、モノ、地位等、他人と比較できる財に基づく幸せ)であり、後者は非地位財である。後半では、本講演でも述べる、筆者らによる幸福の心的要因の因子分析結果と、筆者によるその解釈について述べている。

▲▼▲ 3月29日クリエイティブサロン開催報告▲▼▲

講演会:W型問題解決学によるイノベーションデザイン方法論

講演者:國藤 進 北陸先端科学技術大学院大学名誉教授・特任教授、日本創造学会評議員長



「W型問題解決学」は演者が学生時代、文化人類学者川喜田二郎先生から学んだ創造的問題解決の方法論である。 その前半は問題提起、現状把握、本質追及(仮説の生成と決断)のラウンドからなる文化人類学(社会科学)の方法論である。その後半は構想計画、具体策、手順の計画、実施、検証というラウンドからなる。この後半を仮説に基づく論理的推論、実験計画、観察、統計的検証というラウンドに展開したのが、講演者らのアプローチである。すなわち、後半を自然科学の「仮説・検証」の方法論を展開してきた。これにより様々な科学技術の問題を分析や設計という立場で解決してきた。社会科学の問題解決として展開したのが日本創造学会論文誌第17号の招待論文「ミニ移動大学によるグループ知識創造教育」である。住民、行政を大学が仲介的立場で共創する方法の提示であり、その成功の要因を明らかにし、海外からも注目されている。自然科学や分析の方法論として展開したのが、ある驚くべき現象を説明する仮説を説明するアブダクションシステムの実装である。工学や設計の方法論として展開するとイノベーションデザインの方法論となる。具体例として認知症高齢者が共同生活するグループホームの調査をKJ法で行い、関係者全ての納得する要求を明らかにし、各種の介護支援システムを構築した。すなわちW型問題解決学の有効性は社会科学、自然科学、工学の問題に適用できることが豊富な事例を用いて講演された。

これに対して、会場から分類型KJ法でなく発想型KJ法の本質、海外でKJ法を教える難しさ、どこで本物のKJ法が学べるか、ビッグデータやSNSとの関連、IQ・EQ・CQの関連、などの興味深い質問が相次いだ。また講演後もメイル等で情報交換が続いている。 (記事:評議員長 國藤 進)

ワークショップ: イノベーションとデザイン思考

講師: 有馬 淳 北陸先端科学技術大学院大学客員准教授 会津大学特任教授



モノ思考の製品開発が広がっている現在、モノはツールであり、本来はしたい「コト」あるいは 「経験」を得たいためにモノがあるという本来の製品の意義に立ち返って製品、サービスを見つめ ようというのが「デザイン思考」の趣旨である。この発想プロセスを研究し、実践を試みているの が有馬氏である。今回は発想の糸口になる課題の「共感」と解の「創造」に力点を置いたワークシ ョップを行った。まずトムケリー氏のIDEO社の5日間でスーパーマーケットの新型カート開発情景 を例示した上で、基本の開発プロセスは「共感」、「定義」、「創造」、「試作」、「検証」の5 段階があることを紹介した。題材として高齢者の買い物が不便な「買い物難民」問題を取り上げ、 5人1組で8組構成として発想体験をした。まず「共感」工程では、フリートーク2分の後、例文 を熟読し、課題を共有した後、当事者に成り代わった気持ちで課題を列挙した。実際は、現場に出 向き、顕在事象(Say, Do)と潜在事象(Feel, Think)を観察し、当事者の言葉を傾聴するという作 「定義」工程は、課題を相互共有できる、具体的で、明瞭かつ予断を許さないステート メントを表記する工程である。全工程中、定義づけがその後の工程にブレを生じさせないという意 味で最も重要である。その上で、次の「創造」工程に入り、多種多様で、可能性の最大化を意識し たブレインストーミング(略してBS)を行い、事業アイデアと実際の買い物難民対策案が提出され た。BSの基本は、お互い肩書きをはずし、相互意見を批判せず、共感を求める姿勢が肝要である。 対策案の中で現実性のある候補事例を、まずは素早く作ってみる(ラピット・プロトタイピング) 「試作」工程に進み、最後に、試作品の「検証」工程で、ユーザーが使用するのと同じ環境で、で きればユーザー自身が試用する。この時のユーザーへの「共感」から更なる「定義」、「創造」… を行う。これらの循環を通じてより深いユーザー理解と受け入れられるデザインが得られることに なる。今回は、主に創造工程までを体験するワークショップ2時間、質疑30分であった。

(記事:理事 田村新吾)

▲▼▲ 5月17日クリエイティブサロン開催報告▲▼▲

講演会:デザインと東西哲学

講演者: 浅井由剛 カラーコード代表取締役



美術大学卒業後3年間の世界気まま旅の中で感じたひとつが洋の東西で物の見方が異なることで あり、特に東西の間にある中近東でその印象を強くした。そのひとつは絵の持つコミュニケーショ ン力であり、ひとつは表現の仕方に定性的な違いがあることである。デザインはラテン語のデジナ ーレ(計画を記号に表す)から由来しているが、中に含む印(シグナム)の意味が主張され、デ・ サインは、サイン(印)から脱するという意に変化していった。西洋では、目に見える物は造物主 の神の技であったが、人間が人間の都合の良いモノを作るようになると、求めるコンセプトは形而 上的にはプラトンのいう真理(イデア)の表現であるが、形而下のモノ作りになるテクニックやメ カニックは、神の印を破壊する行為と考えられ詐術とも呼ばれた。この起源からも見られるように、 西洋のデザイン観は真理と、それを求める形づくりという二元論が一般となった。然るに、東洋哲 学では密教に代表されるように、真理は己の中にあり、それを引き出すのが東洋的デザイン心理で ある。仏師は、木の中に在す仏を削り出すのが自分の仕事という方が多いが、東洋的考え方を示す 一例である。このように記号的で論理的な西洋哲学と、表徴的で情緒的な東洋哲学の間にいる日本 では、その両面を融合した論理的ではあるが情緒性を具備したデザインが可能で、日本風の特徴と なっている。これからの日本のデザインは、スタイルだけの「和風」から、西洋的な「より良い社 会」を標榜できるデザイン、形だけのデザインから、美の本質、心まで感じさせるデザインに新し い価値が生まれるだろう。企業のアイデンティティにもこの日本的厚みが表現されると世界的にも 日本風魅力をアピールすることが出来る。会場からは質問が相次いだが、地域活性、企業のアイデ ンティティ・デザインなどで、注文主とのレベル差の克服についての質問に対し、浅井氏は、ただ 単に仕様を聴くだけでなく、相手の動機、関心事を傾聴し、代案を重ねることで共感できるデザイ ンに落とし込んで行くという現実的経験を示してくれた。 (記事:理事:田村新吾)

ワークショップ: イノベーションとデザイン思考 講演者:石井力重 アイデアプラント代表、日本創造学会会員



アイデアプラント代表石井力重氏による「アイデアワークショップ」は2時間40分の持ち時間を 忘れ、参加者全員が盛り上がった最高のワークショップであった。石井氏と相談し決めた課題は 「自然と健康が増進される衣服(靴、帽子を含む)のアイデア」である。この課題に対して5分交 代のペアブレストである「スピードストーミング」を行った。参加者が二重のループのどこかに入 り、計5回のペア交代を行ったので、一気に参加者の親近度がました。アイデアの良い所に焦点を あててコメントする「プレイズ・ファースト」精神が心地よかった。ついであのアイデア面白かっ たなというところを自分のアイデアにこだわらず「アイデアスケッチ」する。更に良案を抽出する ために衆目評価法である「ハイライト法」を用いる。最後に出てきたアイデアの上位案・情熱案を 紹介する「アイデア・レビュー」のところまで今回は行った。40人の参加者が一人最低3件のスケ ッチを提案したので、約120件の興味深いアイデアが図付きで提案された。各人が気に入ったアイ デアのところへ移動しチームを形成し、「発展ブレスト」といった更なる良案の発展プロセス を 行った。最終的なアイデアは今すぐにも商品化できそうなモノやちょっとした技術革新を要するモ ノまで混在していたが、参加者の満足そうな顔やうれしそうな顔を拝見し、このワークショップの 企画者の一人として石井氏は日本最高の若手アイデアソンであることを確信した時間帯であった。

●●国際会議報告●● ~ドイツ創造学会とカタール大学訪問~

報告:樋口健夫理事

國藤進評議員長と樋口健夫理事(国際担当)は、6月1日から12日まで、(ドイツ創造協会の招待を受けて)ドイツ訪問とカタール訪問を実施した。

最初に、ミュンヘンにある日本のIT企業(富士通EST GMBH)のソフト開発最前線を見学し、そこで現地の 社員全員に、二人が講演を行い、意見交換をした。次の日に、ドイツ国鉄の特急ICEで、フランクフルト近郊 のダームシュタットに到着し、ドイツ創造協会の幹部と会食をした。

翌日、6月5日に、ドイツ創造協会のヨルグ・メルンホルン会長と元会長ホルスト・ゲシカ博士等多数の歓迎を受け、マインツ工科大学にて(KJ法を含む)W型問題解決学とアイデアマラソンの講演を行った。

30名を超す会員たちは、國藤のユーモアあふれる講演、樋口のアイデアマラソンの効果についての講演に、大きな関心を示し、講演後の質疑応答も活発だった。特に元会長のホルスト・ゲシカ博士は、かって米国で開発されたBrainstormingの欠点を補うためのBrainwritingの様々な手法を開発した一人である。W型問題解決学がドイツ創造協会で講演されたのは、今回が初めてのようであった。

アイデアマラソンに関しても、ゲシカ博士自身がアイデアマラソンに挑戦してみると話されていたのが印象的だった。その後、6月6日早朝に再び、ドイツ国鉄の特急で、フランクフルト(南駅)から北の端のキールに向かった。フランクフルト中央駅と南駅を取り違えていたが、早めに出発していて助かった。

ドイツ南部のバイエルン地方のミュンヘンから、北端のキールまで、今回はドイツ縦断の快適な旅だった。北の端のキールは、思ったよりも暖かく、キール大学にて國藤が3度目のW型問題解決学とアブダクションに関しての講演を行った。法体系の全体像に漏れがないかどうかを、アブダクションを用いて法創造していくという考えの提示である。ここには、日本から明治学院大学の吉野一名誉教授(法学)が客員教授で滞在されていて、私たちの講演のアレンジで、大変お世話になった。翌日が土曜日で、キールは昔からの軍港で、フィヨルドで細く深くえぐれた美しい港内を船で観光した。無数のヨットが走り回っていて美しかった。我々は海軍の博物館とU-ボートの展示を見学した。同じ船内で、話しかけたきっかけで、相手が東京オリンピックの10種競技の金メダルチャンピオンのドイツ人Willi・Holdorfさんであると聞いて驚いた。一緒に記念撮影。

8日は、ベルリン経由で帰途に就き、カタールに向かった。9日早朝に、カタールのドーハの、まだ完成して2週間経たない新空港に到着した。時差ボケは相当なものだったが、夕方にカタール大学の北陸先端科学技術大学院大学出身の先生方と打ち合わせを行った。次の日の午前中に、カタール大学で二人がそれぞれ講演を行った。約30名の教授陣と学生が出席した。外は6月とは言え、摂氏45度を超す炎天であるが、室内は完全に冷房が利いていた。

これらの講演は、大成功で、大きな反応を引き起こし、講演後、演壇近くで参加者が我々二人を囲んで質問が続いていた。今回のドイツ訪問、カタール訪問では、今後の創造性や創造性教育において、ドイツと日本、ドイツ創造協会と日本創造学会、ドイツの大学群、カタール大学と北陸先端科学技術大学院大学との間の協力を推進していく一歩となった。

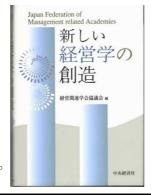


日本創造学会加盟団体

経営関連協議会発行の書籍を希望者にさしあげます。(先着3名様)

ご希望の方は、「新しい経営学の創造を希望」と、メールで事務局にお送り下さい。送付先住所も明記して下さい。先着順で3名の方に送付させていただきます。

経営関連協議会は、日本学術会議の経営学・会計学・商学の旧研究関連委員会構成学会を核として2006年に設立された団体です。できるだけ広い視野で構成学会間の連携を構築することや、社会に対して学術研究や教育の重要性を発信することを目的としています。現在の構成学会は60学会。



中央経済社発行 定価3600円

本書籍は、これまで協議会が開催してきたシンポジウムを中心に、協議会の活動記録を残し、理解を深めてもらうために企画出版された。

- 1章 日本の企業のゆくえ
- 2章 経営学の明日をつくる
- 3章 経営学教育の質保証
- 4章 経営教育の高大連携
- 5章 学術誌をめぐる最近の動向と課題
- 6章 経営関連学会協議会の歩みと課題
- 資料 日本学術会議「経営学分野の参照基準」報告書

2014年度学会誌(18号)論文投稿の募集 当学会は通年査読です。いつでも投稿できます。

編集委員長 西浦和樹

1. 2014年9月末までに投稿され、12月末までに採録された論文が18号学会論文誌(2015年2月発刊)に掲載されます。ご投稿の際には、学会HP「<u>論文を投稿したい方へ</u>」に記載されている論文投稿要領(論文投稿規定および論文執筆要綱)をご覧ください。なお、この論文投稿要領をクリアしていない論文は、受理できない場合があります。過去の論文誌の掲載論文例でフォームを確認するのが便利です。なお電子投稿(pdf化が前提)を歓迎します。また大多数の会員が日本人なので、投稿は原則として邦文としますが、日本語を母国語としない投稿者のために、英文も許容します。

◇論文発送先:〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1 宮城学院女子大学 発達臨床学科 西浦和樹 (電子投稿時 nishiura@mgu.ac.jp)

- 2. ケーススタディ(事例研究)のような実践的論文の投稿も歓迎します。採録にあたり「実践論文」などの区分記載をするかどうかは、査読者の見解を参考にして、編集委員会で個別に決定し、投稿者に打診します。なお、事例紹介のみでの投稿ではなく、オリジナリティーがあり普遍性・論理性・妥当性を持っており客観的考察がなされている論文であることが求められます。
- 3. 査読プロセスの公平性を高めるために、著者が誰であるか、誰の指導を受けているかをマスキングします。したがって、<u>投稿時に当事者が特定できる文献の著者名・所属・謝辞文献は消去し、参照の文言も細心の注意を払ってください</u>。投稿時にマスキングした論文3セット、マスキングしていない論文1セットの計4セットをご送付ください。電子投稿の場合、マスキングした論文とマスキングしていない論文の各1セットが必要です。
- 4. 論文発送と同時に、編集委員長にe-mailを送り、下記の5点を通知してください。
 ①論文タイトル、②著者名、③所属、④論文の仕上がり枚数、⑤緊急連絡先電話番号なお、送信メールアドレスはご連絡に使用しますので通常使用されるものでお願いします。
 ◇西浦メールアドレス nishiura@mgu.ac.jp
- 5. 論文掲載料は、第1著者が正会員の場合2万円、学生会員の場合1万円で、掲載決定時に請求します。採録時に規定枚数(20ページ)を超過した場合の超過掲載料は、1ページにつき5千円とします。
- 6. 投稿論文が採録され、学会誌掲載前で採録決定証明書が必要な方は申し出てください。学会編集委員会で証明書の発行を随時行います。



日本創造学会論文誌Vol.1-17 全17巻(1996年~2013年) 研究大会論文集12巻(2002年~2013年)は学会事務局にて販売しています。

◆論文誌新刊(2013年版Vol.17) DVD 価格3,000円 論文誌バックナンバー DVD 価格2,000円◆研究大会論文集 DVD 価格2,000円

※論文誌と全研究大会論文集はDVDデータ(PC対応)となります。 発送の際にはメール便送料(80円)実費がかかります。

各号論文誌・論文集に採録された論文タイトルは学会HPで確認できます。



日本創造学会論文誌Vol.17(2013)論文賞

学会賞委員会にて検討の結果、論文誌Vol.17論文賞は下記の論文に決定致しました。

論文タイトル: 「親和図と2軸図を用いた構造シフト発想法の主観的評価」

著者: 今泉友之、白坂成功、保井俊之、前野隆司

論文タイトル:「看護・看護教育における創造性育成」に関する概念分析」

—Rodgersの概念分析法を用いた文献分析による帰結—

著者: 佐藤道子、岸あゆみ

◆◆◆新入会員紹介◆◆◆

(個人情報が含まれるため、Web版では削除いたしました)

●●賛助会員(法人)募集キャンペーン●●●

- 1)入会金不要
- 2)年会費3万円(3名記名方式)を今年度に限り半額の1万5千円に。
- 3)登録した方3名はどなたも個人会員と同じ権利を有します。 (学会誌送付、ニューズレター配信、学会主催講演やWSは無料で参加)
- 4) 賛助会員(法人) 企業が企業として学会発表する場合には、登録会員外であっても研究大会の表発が自由にできます。(通常は個人会員か学生会員に限定されています。)
- 5)日本創造学会ホームページの賛助会員一覧に法人名とロゴが掲載され、リンクが貼られます。



日本創造学会では、学会フェイスブックを開設しています。開催イベント等の紹介を行っておりますので是非ご覧ください。

https://ja-jp.facebook.com/japancreativity

事務局メッセージ

本年度の大会は産能大学世田谷キャンパスで開催されます。大会テーマは「体験と創造」です。アイデアを出してイノベーションを起こすには共創が不可欠であり、どのような時に共創が重要か。前野教授の基調講演、そして今、話題の方々によるパネルディスカッションは、多くの人に勇気を与えてくれることと期待しています。皆様の参加を心よりお待ちしております。

(事務局:比嘉)

日本創造学会 ニューズレター

2014年7月発行(№2) 日本創造学会事務局

発行人: 櫻井敬三編集担当: 比嘉由佳里

〒272-0015 千葉県市川市鬼高4-7-6-816

Tel 080-3465-6152

Fax 047 - 314 - 6380

e·mail: jcs-info@japancreativity.jp http://www.japancreativity.jp/